



## ドイツ現代史学会 第33回大会

# ドイツ史のなかの「68年」

ワークショップ 9月18日(土) 13:00~17:30

1. ナチ・ドイツにおける労働動員

——ユンカース航空機・発動機製作所を例に ……………増田好純(東京大学)

2. 象徴をめぐる政治と電話交換手のエージェンシー……………石井香江(四天王寺大学)

3. ヴァイマル期ドイツにおける釈放者扶助の展開とその論理……………佐藤公紀(東京大学)

4. ヴァイマル期人口言説と有識者集団の成立……………村上宏昭(関西大学)

シンポジウム 9月19日(日) 10:00~16:00

1. 東ドイツにおける「1968年」の意義……………井関正久(中央大学)

2. 「1968年」のアメリカニズム ……………田中晶子(京都市立芸術大学)

3. ドイツの「68年運動」と「性の解放」……………水戸部由枝(明治大学)

司会：西田 慎(神戸大学) コメントータ：小熊英二(慶応義塾大学)・高橋秀寿(立命館大学)

日時 2010年9月18日(土)・19日(日)

会場 関西大学 高槻キャンパス内「高岳館」

参加費 一般2000円(院生・学生1000円)

詳細は「<http://wwwsoc.nii.ac.jp/ssmgh/gakkai.html>」をご参照下さい。